

北区民まちづくり会議 摘録(平成26年9月19日(金) 午後6時30分～8時)

【開会】

- 委員の欠席をお知らせ
- 会議を公開（発言要旨を北区役所ホームページに掲載）することを説明

【区長挨拶】

- ・ 8月に実施した「北区民まちづくり会議ワークショップ」には、多数の委員の皆様にご参加をいただき、「大学と地域」をテーマに活発に御議論いただいた。委員の皆様のまちづくりに対する思いを改めて感じた。
- ・ 今回の会議の内容として、「北区基本計画～はつらつ北区プラン～」の中間見直しのための部会設置、その他、来年に迎える区制60周年記念事業のための準備委員会にまちづくり会議の委員の皆様のご参加をお願いするものである。
- ・ 平成23年度に「北区基本計画～はつらつ北区プラン～」が策定されてから、防災の観点の重視や、人口の減少など社会情勢の大きな変化があった。中間点となる来年度に向けて北区基本計画の内容について見直しを進める必要がある。
- ・ 基本計画の10の分野を4つの部会に分けて議論をお願いしたい。部会のメンバーについては希望を募り、人数や専門分野も配慮して事務局から提案させていただくので、御理解をお願いしたい。
- ・ 来年の9月に区制60周年を迎えるにあたり、北区基本計画に示された北区の目指すまちの将来像の実現を図るための契機となる記念事業を、区民の皆様との協働により実施したいと考えている。
- ・ 10月に北区制60周年記念準備委員会を立ち上げて、そこで議論をお願いしたいと思っている。
- ・ 以上について、委員の皆様とともに進めていきたいと考えている。盛りだくさんの内容であるが、最後までよろしく願います。

【議事】

○座長

次第に従い、議事を進行する。まず、はじめに、まちづくり会議ワークショップについて事務局から説明をお願いする。

○事務局

<資料3に基づきワークショップの概要について説明>

○座長

これに関わった委員の方からも、一言頂戴したい。

○委員

学生も結構忙しい。「自宅から通っているか」「下宿しているか」「学部はどこか」「ゼミとして地域と関わっているか」など学生によって違う。それぞれのレベルで関わるのが

できるように、かみ合う仕組みが必要。佛教大学では地域連携の仕組みは持っているが、地域の方からも、年間を通じて情報を学生に提供する仕組みがある。地域も大学のどこに話を持っていったらいいかわからない。制度というほど大層なものではないが、地域の思いが大学とかみ合うような一定の仕組みがあれば、という話だった。

○座長

なかなか大変な問題。「学生・大学と地域をつなぐ仕組みはあるが、まだ努力の余地がある。もう一歩」というお話であったかと思う。宗本委員にもお話をうかがいたいが、まだいらしてないので、到着次第ということにさせていただく。他の委員からこのワークショップについて補足があれば、お願いしたい。

○委員

第2回のワークショップでは、学生が6名参加されたとのことだが、学生さんの意見はどのようなものか詳しく聞けたらと思う。

○事務局

第1グループは、大宮学区に入っている学生が参加していた。大学生が地域に入るきっかけとしては、ゼミとして関わったのがきっかけというお話だった。また、御園橋商店街においては、やおいちゃんや自転車タクシーなどの例について紹介があった。森下委員からも林業について大学生と何かやりたいというお話があり、大学生からも「やってみたい」という意見が出された。

第2グループは、「なにかできないか」という思いはあるか、きっかけがない。地域からのきっかけが大事という話になった。学生からも「きっかけを地域から提供してもらえたら」という様々な意見があった。

○座長

「きっかけがあれば参加する」という学生の思いがあらわれている。他にご発言があれば。

○委員

第1回に参加し、「大学と地域でつながる仕組み」というテーマだった。大学生を「住民」として考えると町内に参画をお願いするということになる。一方でゼミ・サークルなどの「組織」として学生が地域に関わる。どちらについてもつながりを深めていくことのできる窓口、あるいはニーズをマッチングする場ができればいいと思った。

○委員

学生が言っていたことであるが、学生は4年間で学び、出ていく。学生にしてみれば、自分達のしたことを受け継いでほしい、つないでほしいという思いがある。

○委員

私は2回目に参加した。この回に参加してくれた学生は、かなり地域に入っている人たちだった。積極的な意見も言い、地域についても色々知っていた。運動会や地蔵盆に参加してもらうとなると町内会に加入してもらえないといけない。私の地域にシェアハウスがあるが、みんな町内会に入ってもらっている。町内会に入って地蔵盆の手伝いをするときには、「お供えを持っていかないとあかん」ということまで教えている。ただ地蔵盆は学生も夏休みで実家に帰ってしまうので、参加も難しいようだが、うちの学区では毎年必ず学生が参加して

いて地蔵盆も盛り上がる。

学生がどのように地域に入るかというのは難しい。ゼミの単位のために地域に入ってくる子もいるが、それは本来の姿ではないと思う。やはり学生の意思で地域と一緒に活動してやる必要がある。「来るもの拒まず、去るもの追わず」の姿勢で学生と関わっている。現在、学区において大学生と地域の独居高齢者が一緒に活動している。学生が入ると会の雰囲気はころっと変わる。孫みたいな世代だが、他人だからこそできる話もある。学生にも高齢者にもプラスになっていると思う。

今、地域には佛教大学以外にも立命館大学や京都産業大学の学生も来ていて、それらの学生の交流も目指しているがなかなか難しい。佛教大学学生グループ「むらさきっず」が継続的に地域に入って来てくれるが、4回生になると就職の問題もあり、頻繁に来られるなくなるので、学生が地域に来るのは2年間。2年間で地域は学生に何を教えてやれるか。それを考えながら活動している。

○座長

他の地域で力が出そうな話。学生とうまくやっていただいている。学生をつかまえて、コミュニケーションを取るということが大切。地域から学生に声かけをしていただき、きっかけを作りあげていただければと思う。

次の議題に移る。北区基本計画の見直しについて事務局から説明をお願いします。

○事務局

<「北区基本計画～はつらつ北区プラン～」の概要を説明>

- ・北区基本計画と京都市基本計画は同列で相互に補完する関係。
- ・目標年次は、平成32年度。来年27年度が5年目で折り返し地点。
- ・円卓会議、100人委員会などで出していただいた区民の皆様のこのまちに寄せる熱い思いとまちづくりの決意をもとに、区民の皆様のための、区民の皆様が主人公の計画として策定。
- ・27年度に向けて、計画を振り返り、現在「出来ているところ」「出来ていないところ」「新たに取り組むべきところ」を委員の皆様の実感の中から議論いただき、行政、大学、事業者、地域、区民がどうすればよいかについて見直ししていただきたい。

<資料4に基づき説明>

- ・全体会議で議論をするには時間がかかり議論が深まらない形になることが考えられるため、別紙のような部会という形で見直しを行いたい。副座長が部会長となり、4つの部会を想定しており、事前に委員の皆様にご希望を伺い事務局案を作成したので、御了承を願いたい。ただし、これは本籍として所属していただくものであり、他の部会も自由に御出席いただくことは可能とさせていただきます。
- ・今後は部会での議論をお願いします。平成27年の9月に予定している区制60周年の記念式典に見直しをまとめたい。

<資料5に基づき説明>

- ・事前に委員の皆様にご協力いただいたアンケート回答をまとめた。

<資料6に基づき説明>

- ・「実感」調査として、部会の参考資料として扱うため、区民の皆様にも広くアンケートをしたいと思う。
- ・委員の皆様にご協力いただきたいと、アンケート用紙・返信用封筒などを10セットずつ御用意させていただいた。強制ではないので、御無理のない範囲で回りの方にご協力をお願いしたい。

○座長

ありがとうございました。北区基本計画の見直しを図りたいということで、部会を設け、副座長にとりまとめをお願いし、委員の皆様もそれぞれの部会に入ってください、部会において「北区基本計画～はつらつ北区プラン～」の見直しについて御議論をお願いしたい。

○委員

アンケートの出し方について聞きたい。配ったら必ず返してくれると思うが、回答者の記名はいらないのか。

○事務局

記名はいらない。ご協力いただけるということであれば、委員の皆様で取りまとめていただいてもよいし、それぞれ渡していただいて個別にFAXや返信用封筒にて御提出いただいてもよい。

○委員

10通まとめたら、まちづくり推進担当に持っていけばよいのか。

○事務局

総務・防災担当をお願いします。よろしくをお願いします。

○座長

部会については、副座長、委員の皆様にも、案のとおり御参加いただくということでよろしいか。それでは、この体制によりお願いします。

アンケートについて、他にご質問があれば。回収したら、持参すればよいのか。

○事務局

持参いただいてもよいし、同封の返信用封筒を御利用いただき郵送いただいても、回答者が個別に提出いただいてもよい。よろしくをお願いします。

○座長

その他、ただいまの事務局からの報告について、何か御意見や御感想などがあればお願いします。

○委員

アンケートの内容を読んでも理解できない人も多いと思うが、資料を付けることはできないのか。「北区基本計画～はつらつ北区プラン～」を知らない人がアンケートだけを読んでもわからない気がする。

○事務局

封筒の中に「北区基本計画～はつらつ北区プラン～」の概要が分かる一枚物を資料として同封させていただいているので、「これに基づいた御感想を」ということで御依頼いただければよいと思う。

○委員

了解した。

○座長

アンケートについて他にご質問はないか。なければ、大変かと思うが委員の皆様にもご協力をよろしく願います。

話が前後するが、委員がお越しになったので、北区民まちづくり会議ワークショップに御参加いただいているので、その際の御報告を一言願います。

○委員

遅れて申し訳ない。私は第1回に参加した。2回目については報告書を拝見して、私見を述べさせていただく。「大学と地域の関係」というよりも「大学生と地域の関係」として「大学生」を意識した発言が多くあった。大学の窓口そのものも、立命館大学には実際にはあるが、そのような窓口が機能して連携するというよりは、むしろ個人と個人の関係の中で学生がどのように地域に入っていくかということが問題になった。実際に、つながりが個人の関係に依存しているので、どのように学生の目線になって情報を発信するかが大事になってくる。

第2回のワークショップの報告書の中に、学生と地域の関わりが3段階に分けられるというお話があった。いきなり第3段階に持っていくのは難しい。第1段階、第2段階、第3段階と少しずつ人を巻き込みながらも進んでいくには、やはり最初のきっかけが大事だと思った。きっかけとして大事なものは、学生の目線に立って有意義な体験を創るということであると委員の皆さんがお考えになっている。例として挙げられている「今宮祭り」など、学生が参加しやすく体験して印象に残りやすいものをきっかけとしてうまく参加を促して地域に関わってもらうことが大切である。実際に学生を巻き込む数が増えてから、問題になるのが窓口である。地域側と学生側の情報を集約するところが必要になる。情報サイトやSNSで情報を発信することは可能かもしれないが、すれ違いになってしまう。やはり、地域側と学生のフェイストゥフェイスで継続的なつながりを持っていくことが非常に大切。お金がかかることは大変なので、「あいさつ」など継続的な活動をしながら窓口も創っていくという幅広い活動が必要になってくる。2回のワークショップを通して、私見を述べさせていただいた。

○座長

2回のワークショップについての的確にまとめていただいた。

続いて「その他」について事務局から願います。

○事務局

<資料7・8>に基づいて、今後のスケジュールなどを説明。

- ・全ての委員に部会の日程をお知らせするので、所属される部会以外にもよろしければ、御参加願いたい。
- ・来年は区制60周年であり、60周年を契機として更なる発展を目指して記念事業に取り組みたいと考えている。
- ・まずは準備委員会として、アイデア出し・企画をする会の立ち上げ、まちづくり会議の委員には中心メンバーとして参画を願います。

- ・来月には準備委員会を開催し、事業の内容や実行員会について御意見を頂戴したい。よろしく願います。
- ・最後に、「ふるさと納税」についてチラシにより説明。

○座長

ただいまの事務局からの報告について、何か御意見や御感想などはないか。

ないようなので、これで本日予定されていた議題はすべて終了した。ご協力ありがとうございました。

では、事務局に進行をお返しする。

【閉会】

市川座長、ありがとうございました。委員の皆様方も、御意見ありがとうございました。

区民の皆様「北区のまちに住んでいてよかった」と思っていただけのように、さらに住みやすく、安心安全な街になるように進めていきたいと思っておりますので、御協力のほど、どうかよろしく願います。

では、これで北区民まちづくり会議を終了する。

本日は最後までありがとうございました。

<以上>